

裁判員経験者との座談会

～未来の裁判員の皆様へ～



前列左より伊藤智さん、坂本弘子さん、荻原雅博さん
後列左より村越一浩裁判官、藤田まり絵裁判官

はじめに

村越 裁判員制度は、本年5月21日に10周年を迎えます。これまでに8万6000人以上の方に裁判員等として裁判員裁判にご参加いただきましたが、国民の皆様の大半は裁判員裁判を経験しておらず、裁判員になることに不安を感じている方もいらっしゃるかと思います。そこで、本日は、裁判員を経験された方々の生の声を国民の皆様にお伝えしたいと考え、皆様にお集まりいただきました。まずは、自己紹介をお願いします。

伊藤 普通にサラリーマンをしています。私が経験したのは殺人未遂の事件でした。

坂本 私も会社勤めで、担当したのは放火の事件です。

荻原 私も会社員で、担当したのは強盗致傷の事件でしたが、裁判員を経験するまでは、裁判所とは縁もゆかりもないと思っていたので、裁判所から通知が来たときは、そういえば裁判員制度というものがあったくらいに感じました。

村越 通知とは、裁判員候補者の名簿に記載され

ましたという通知ですね。他のお二人は、その通知をご覧になってどういう気持ちになりましたか。

坂本 そうですね。その時点では何か自分事とは思えなくて。裁判員制度についても、一般市民も参加するんだなという程度の認識しかありませんでした。

村越 伊藤さんも同じような感じでしたか。

伊藤 いえ。私は、とても興味を持っていましたので、通知が来たときはすごく嬉しかったです。

一同 おー（驚嘆）

村越 それなら、具体的な事件で候補者に選ばれましたので選任手続期日に来てくださいという2つ目の通知が来たときは。

伊藤 「よし、もちろん行くよ！」と（笑）。選定手続で裁判員に選ばれた時も本当に嬉しかったです。が、実はその気持ちは次第に変わっていくんです。

村越 心境の変化ですか。是非、後ほどいかががたいですね。



伊藤 智さん

荻原 最初に思ったのが仕事の調整で、選ばれた場合には会社を休まなくてはならないので、会社の制度がどうなっているのかが気になりました。確認してみたら、制度もちゃんとあって、雰囲気的にも、裁判員に選ばれたらちゃんと行きなさいというような感じだったので、参加し易かったです。



荻原雅博さん

坂本 事件のことを考えないといけないと思うと若干気が重かったですが、断ろうとは思いませんでした。私も、仕事の調整が大変だと思っていたのですが、実際に裁判員に選ばれたことを上司に報告したら、「面白そうじゃないか、行ってこいよ。」と言われ、国民の義務みたいなものだから行った方がよいよというように感じて周りが理解してくれたので、意外にスムーズに仕事の調整もできました。



法廷での審理

村越 実際の法廷での審理はどうお感じになりましたか。

坂本 すごく驚いたのは、冒頭陳述でワードでベタ打ちしたような資料が配られるのかと思いきや、検察官と弁護人から提出された資料はとても分かりやすく、必要な情報が1枚の紙にコンパクトにまとめられていたので、それぞれの主張が良く理解できました。要望としては、もう少しゆっくり話していただくとメモを取りやすいと思いました。

伊藤 私も資料はびっくりしました。よくできていて、時系列で書かれていたりとか。聞き

慣れない言葉は当然ありましたが、特にわかりにくいということはなかったです。

荻原 証拠調べも、映像や、現場の地図、写真など、目で見てわかるものが多く出てきたので、専門用語のようなものも出てきましたが、わかりやすかったと思います。

村越 裁判官として心掛けていることはありますか。

藤田 初めての法廷で緊張される方もいらっしゃると思いますので、冒頭陳述の後に少し長めの休憩を入れて、緊張をほぐしてもらったり、質問に答えるなどして、裁判官からもサポートできるような工夫をしています。

評議について

村越 それでは、伊藤さんはどうですか。先ほどのお話しだと、心境の変化があったとか。

伊藤 ええ、選ばれて単純に嬉しいと思いながら裁判に臨んだのですが、いざ法廷に入ると傍聴人がたくさんいて、被告人を目の当たりにし、そして、被告人の父親から、被告人の生い立ちや胸に秘めた思いなどを聞いているうちに、本当に真剣に取り組まなければという気持ちに変わっていきました。評議でも、私を含めてみんな活発に意見を言い合い、非常に良い評議ができたと思っています。

村越 本当に充実した評議をされたんだろうなということはお話を聞いてすごく感じました。他の方はどうでしたか。

坂本 私も、裁判員が意見を言い易いように裁判長や陪席の方が雰囲気作りをしてくれましたので、自分の意見をしっかりと伝えることができましたし、他の裁判員もそれぞれが、自分はこの理由でこう思うということストレートに話されていました。その中で、能天気にも暮らしている自分ではない、社会の一員としての自分みたいなものを改めて自覚しました。



坂本弘子さん

荻原 私も同感です。評議を上手く進行してくれ

たので、みんな活発に意見を述べていました。中には、自分がこんなに話せることに初めて気付きましたという裁判員もいたくらいで。

村越 私は、いい結論を出すためには、お互いがあることをきちんと出していただくことが重要なことと思っています。そこで、いつも評議の始めに、ホワイトボードに「ためらわないでください」と書いて、質問すること、意見を述べること、反論すること、意見を変えることという4つの「ためらわない」を裁判員にお願いしています。どの裁判官も評議の際に色々な工夫をしていると思います。

藤田 裁判員裁判を通じて私も勉強させてもらっています。裁判員の方々の声を聞いたり、疑問に答える中で、法律の趣旨や解釈の理解が深まったり、刑を言い渡す重さを改めて実感したりしています。これからも1件1件大事に裁判をしていきたいです。

印象に残っていること

村越 裁判員を経験されて印象に残っていることはありますか。

坂本 最後に話し合ったときに、評議ではみんなと同じように一生懸命意見を言っていた方が、裁判員はありがたい経験だったけど、できればやらずに過ごしたかったとも思う、と話していたことです。裁判では、いい話ではないものも聞かなければならないので、なかなか難しいなと思いました。ただ私としては、何か本当に社会の一員なんだということを改

めて感じさせてもらったので、すごくいい時間を頂戴できたと思っています。

未来の裁判員の方へ

村越 最後に、未来の裁判員に向けてメッセージをいただけませんか。

伊藤 選ばれるまでは不安に思うかもしれませんが、その必要は全くないと自分が経験して思いました。知識も特に必要はないですし、裁判官もしっかりサポートをしてくれます。重要なのは、事件に真摯に向き合い真剣に考えることで、人間的成長につながる、日常にはない経験ができます。

坂本 自分以外の人生をこんなにも真剣に考えたのは初めてでした。仕事も生活環境もバラバラの人達が、みんなで真剣に被告人一人の人生を考えることで、自分の生き方とかを振り返る貴重な機会になりました。司法も人間が担う温かみのあるものだの実感できましたし、仕事が忙しい方にこそぜひ経験して欲しいと思います。

荻原 今までは自分の経験とか周りの常識などで物事を考えていましたが、裁判員を経験し、本当にそうなのかということを、もっと自分で考えないといけないと気づかされました。私も働いている人ほど、積極的に参加した方がよいと思います。

村越 とても前向きで熱いメッセージを頂戴しました。本日は本当にいいお話をありがとうございました。

